

第3学年

令和2年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

鍼灸科第二部

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	国分 壮一	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床論 I	曜日・時間	月曜日 17:40～

【授業概要・目標】 西洋医学的に授業を進めるので、症状や病態を理解する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	西洋医学的に病証を理解する
2	総論(授業の進め方)
3	1.頭痛
4	2.顔面痛 3.顔面麻痺
5	4.歯痛 5.眼精疲労 6.鼻閉・鼻汁
6	7.脱毛症 8.めまい 9.耳鳴りと難聴
7	10.咳嗽 11.喘息
8	12.胸痛
9	13.腹痛
10	14.悪心と嘔吐 15.便秘と下痢
11	16.月経異常
12	19.肩こり 20.頸肩腕痛(1)
13	19.肩こり 20.頸肩腕痛(2)
14	21.肩関節痛 22.上肢痛
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	17.排尿障害 18.インポテンツ
2	23.腰下肢痛(1)
3	23.腰下肢痛(2)
4	23.腰下肢痛(3)
5	24.膝痛(1)
6	24.膝痛(2)
7	25.運動麻痺
8	26.高血圧症 27.低血圧症
9	28.食欲不信 29.肥満 30.発熱
10	31.のぼせと冷え 32.不眠 33.疲労と倦怠
11	34.発疹
12	35.スポーツ医学(1)
13	35.スポーツ医学(2)
14	36.老年医学
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験(2回実施)により評価する。
授業の進め方	配布するプリントとプレゼンテーションにより行う。
注意 (学生に望むこと)	配布プリントを予習して、授業中に理解できるように集中して聞いてほしい。 また復習が望ましい。
テキスト・参考書	指定された教科書を用いる。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	國分 俊繁 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	臨床医学各論Ⅱ	曜日・時間	月曜日 19:15～

【授業概要・目標】

各疾患についての疫学、成因、症状などを学習する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	整形外科疾患Ⅰ
2	整形外科疾患Ⅱ
3	整形外科疾患Ⅲ
4	整形外科疾患Ⅳ
5	整形外科疾患Ⅴ
6	神経疾患Ⅰ
7	神経疾患Ⅱ
8	神経疾患Ⅲ
9	神経疾患Ⅳ
10	神経疾患Ⅴ
11	リウマチ性疾患Ⅰ
12	リウマチ性疾患Ⅱ
13	リウマチ性疾患Ⅲ
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	小児科疾患
2	一般外科
3	麻酔科
4	婦人科疾患
5	皮膚科疾患
6	眼科疾患
7	耳鼻科疾患
8	精神科疾患
9	心療内科
10	問題演習Ⅰ
11	問題演習Ⅱ
12	問題演習Ⅲ
13	問題演習Ⅳ
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験
授業の進め方	板書・配布資料
注意 (学生に望むこと)	身体の構造と機能をもとに疾患の理解を深める
テキスト・参考書	テキスト:臨床医学各論 参考書:病気がみえる

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	萱場 公雄	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	関係法規	曜日・時間	火曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 保健医療福祉制度の中におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の位置付けや職業倫理について理解を深める。生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うことを目標とする。 医療法、医師法等の医事法の体系の中での「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」、社会保障法、社会福祉関係法について学ぶ。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	関係法規序論(1) 関係法規とは、関係法規の内容、 関係法規と医事法
2	(2)法の概念、法の領域、法の存在形式
3	(3)法秩序の構成原理、法の解釈
4	医療法(1)医療法の概要、医療法の目的、 医療提供の理念、医療関係者の責務
5	(2)医療提供施設の種類と定義、 類似名称の使用制限
6	(3)医療提供施設の要件、 法定人員、構造設備の基準等
7	(4)医療提供施設の管理監督等、 医業等の広告の制限
8	(5)医療計画、医療法人、地域医療連携 推進法人、医療審議会、地域保健法
9	医師法(1) 医師法の概要、資格法、臨床研修
10	医師法(2) 業務法、医業と医業類似行為
11	医師法(3) 義務法、罰則、秘密保持義務
12	他の医療関係者に関する法律(1) 歯科医師法、保健師助産師看護師法、診 療放射線技師法、臨床検査技師等法
13	(2)理学療法士及び作業療法士法、 視能訓練士法、言語聴覚士法、 臨床工学技士法
14	(3)義肢装具士法、救急救命士法、歯科衛 生士法、歯科技工士法、柔道整復師法 医師と他の医療関係者の業務の関係、 名称独占と業務独占
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師 等に関する法律(1)法律の沿革、法制定の 目的、指定試験(登録)機関の指定
2	(2)指定試験(登録)機関が試験(登録) 事務を行うときの規定の適用
3	(3)免許、免許の取得と取消、名簿、 登録事務、学校・養成施設、試験
4	(4)施術者の業務、守秘義務等
5	(5)施術所に関する規制、広告の制限、 免許取消と業務停止
6	(6)罰則、両罰規定
7	(7)医業類似行為とその規制、 医業類似行為に関する判例
8	その他の関係法規(1)-予防衛生法規、薬 事関係法規-感染症の予防及び感染症 の患者に対する医療に関する法律、予防 接種法、医薬品医療機器等法、薬剤師法
9	(2)-保健衛生法規-健康増進法、母子保 健法、母体保護法、精神保健及び精神障 害者福祉に関する法律
10	(3)-社会保障関係法規-健康保険法、高 齢者の医療の確保に関する法律、 介護保険法
11	(4)-社会福祉関係法規-社会福祉法、生 活保護法、老人福祉法、児童福祉法
12	(5)障害者基本法、障害者の日常生活及び 社会生活を総合的に支援するための法 律
13	(6)身体障害者福祉法、 知的障害者福祉法、発達障害者支援法
14	個人情報保護法
◆	後期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期、後期の筆記試験による評価。前期試験は、記述問題と選択問題、 後期試験は、国家試験に準じた選択問題とする。
授業の進め方	講義方式。医療六法の条文を読み理解する。
注意(学生に望むこと)	授業中の私語は厳禁とする。基本的なマナーを守ること。
テキスト・参考書	必要に応じて、レジュメを配布する。 医療六法令和2年版(必携) 前田和彦監修 関係法規 医歯薬出版

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅲ	曜日・時間	火曜日 19:15～

【授業概要・目標】

臨床の現場に入ったときに即戦力となるための、臨床能力を身に付けることを目標とする。東洋医学を判りやすく解釈する事、運動の基礎を理解する事、全体症状の理解深める事で、患者さんの症状を広範囲から思考・判断出来るようになる事。共に、東洋医学として論理的に症を判断し・治療原則を考察し・根拠のある治療方法を導き出し、治療を行う。治療後、予後の説明と、日常生活上のアドバイスをする事が出来るようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	灸実技確認・指導
3	めまい について
4	めまい について
5	めまい について
6	めまい について
7	疲労 について
8	疲労 について
9	疲労 について
10	疲労 について
11	前期復習
12	前期復習
13	試験準備
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	排尿障害
2	排尿障害
3	排尿障害
4	排尿障害
5	排尿障害
6	排尿障害
7	実技試験準備
8	実技試験準備
9	実技試験準備
10	開業治療室 臨床について
11	開業治療室 臨床について
12	後期復習
13	試験準備
14	実技試験
15	評価点検

評価方法	東洋医学と科学的観念を用い、正確な全体症状を診断・治療・接遇が出来るか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、生徒の自主的な能力向上意欲の惹起に努める。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	素問・運動の神経科学・聞く技術(上)(下)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	亀井 啓	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技 I	曜日・時間	水曜日 17:40～

【授業概要・目標】

臨床に必要な運動器疾患の理学的所見と鑑別法、その疾患を学ぶ。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	総論(主訴、現病歴、カルテ、ROM)
2	腰痛-1
3	腰痛-2
4	坐骨神経痛-1
5	坐骨神経痛-2
6	膝関節痛-1
7	膝関節痛-2
8	頸・上肢痛-1
9	頸・上肢痛-2
10	五十肩-1
11	五十肩-2
12	その他の疾患と検査
13	前期まとめ
14	前期実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期復習
2	前期復習
3	症例と鑑別診断-2
4	症例と鑑別診断-3
5	症例と鑑別診断-4
6	症例と鑑別診断-5
7	中間実技試験
8	検査と治療-1
9	検査と治療-2
10	検査と治療-3
11	症例検討-1
12	症例検討-2
13	症例検討-3
14	後期実技試験
15	評価点検

評価方法	前期試験、中間試験、後期試験の成績による。
授業の進め方	教科書の内容に沿って進める。
注意 (学生に望むこと)	構造とその動きをイメージでいるようになること。漫然と行うのではなく意義や意味を理解すること。
テキスト・参考書	問診・診察ハンドブック、解剖学、配布資料

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	東洋医学応用概論	曜日・時間	水曜日 19:15～

【授業概要・目標】

施術に携わる上での実務知識を学習する。資格取得に必要な知識の習得度合を確認する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	はりきゅうの概論と歴史
3	はりきゅうの歴史と社会的背景
4	はりきゅうを取り巻く環境
5	社会保険制度下のあはき治療
6	地域におけるはりきゅう治療(1)
7	地域におけるはりきゅう治療(2)
8	高齢化社会におけるはりきゅう師の役割
9	少子化社会におけるはりきゅう師の役割
10	女性の健康管理におけるはりきゅう師の役割
11	ストレス社会におけるはりきゅう師の役割
12	はりきゅう師の衛生管理について
13	はりきゅう師の関係法規について
14	前期授業内容のまとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期授業内容の復習
2	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(1)
3	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(2)
4	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(3)
5	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(4)
6	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(5)
7	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(6)
8	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(7)
9	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(8)
10	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(9)
11	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(10)
12	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(11)
13	はりきゅう師に必要な基礎知識の復習(12)
14	後期総まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	内容に応じて講義または演習形式にて行う。
注意 (学生に望むこと)	はりきゅう師の現状を学習し、これからのはりきゅう師はどうあるべきかを自ら考えながら学習してください。
テキスト・参考書	なし(プリントを配布)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	曜日・時間	木曜日 17:40～

【授業概要・目標】 各項目の適応・不適応，東洋医学的な考え方を学習する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	治療総論
2	頭痛
3	顔面痛, 顔面麻痺
4	歯痛, 眼精疲労
5	鼻汁・鼻閉, 脱毛
6	めまい, 耳鳴りと難聴
7	咳嗽, 喘息
8	胸痛
9	腹痛
10	悪心と嘔吐
11	便秘と下痢
12	月経異常
13	排尿障害, インポテンツ
14	復習①
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肩こり, 頸肩腕痛
2	肩関節痛, 上肢痛
3	腰下肢痛, 膝痛
4	運動麻痺, その他
5	高血圧, 低血圧
6	食欲不振
7	肥満
8	発熱
9	のぼせと冷え
10	不眠
11	疲労と倦怠
12	発疹, 小児の症状
13	老年医学における鍼灸療法
14	まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	小テスト, 本試験, 出欠(授業態度)など
授業の進め方	履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。
注意 (学生に望むこと)	小テストを行う。
テキスト・参考書	教科書, 配付資料

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日 19:15～

【授業概要・目標】	
①奇経の診察(四診)点と主治症を判断と治療、穴に基づき主治穴を単独または一対での治療原則の習得。	
②各疾患の病態・適応・不適応の所見の取り方の習得。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	奇経八脉の流注と病証①
2	奇経八脉の流注と病証①復習
3	奇経八脉の流注と病証②
4	奇経八脉の流注と病証②復習
5	奇経八脉の流注と病証③
6	奇経八脉の流注と病証③復習
7	奇経八脉の流注と病証④
8	奇経八脉の流注と病証④復習
9	まとめ
10	まとめ
11	鍼灸実技評価審査練習①
12	鍼灸実技評価審査練習②
13	実技試験
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肺経・大腸経の是動病と所生病
2	上記:経穴取穴・四診
3	胃経・脾経の是動病と所生病
4	上記:経穴取穴・四診
5	心経・小腸経の是動病と所生病
6	上記:経穴取穴・四診
7	膀胱経・腎経の是動病と所生病
8	上記:経穴取穴・四診
9	心包経・三焦経の是動病と所生病
10	上記:経穴取穴・四診
11	胆経・肝経の是動病と所生病
12	上記:経穴取穴・四診
13	実技試験
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	症例報告、授業への(出席、態度含)取り組みと筆記、実技試験との総合判定
授業の進め方	履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。 授業内で診断・手技の口頭質問あり。
注意 (学生に望むこと)	総合的診断・技術能力を高めるために課題を提出。
テキスト・参考書	教科書(東洋医学概論・東洋医学臨床論・経絡経穴概論・解剖その他), 配付資料

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅳ	曜日・時間	金曜日 17:40～

【授業概要・目標】

鍼灸の臨床に必要な運動器系の傷病と鑑別法を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション・身体診察・計測
2	頭痛
3	頸上肢痛-1
4	頸上肢痛-2
5	頸上肢痛-3
6	頸上肢痛-4
7	腰部痛-1
8	腰・下肢痛-1
9	腰・下肢痛-2
10	膝部-1
11	膝部-2
12	鑑別診断
13	実技試験
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	鑑別診断-1
2	鑑別診断-2
3	鑑別診断-3
4	鑑別診断-4
5	鑑別診断-5
6	鑑別診断-6
7	鑑別診断-7
8	鑑別診断-8
9	症例検討-1
10	症例検討-2
11	症例検討-3
12	症例検討-4
13	実技試験
14	実技試験
15	評価点検

評価方法	口答・実技・筆記試験、出席、授業態度(習熟度)、レポート提出の総合評価とする。
授業の進め方	運動器系の構造と機能を復習しながら、病態、鑑別診断(検査法)を確認する。
注意 (学生に望むこと)	授業に必要な部位や傷病のノートを作成する。運動器系の構造、機能を復習する。
テキスト・参考書	

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	金曜日 19:15～

【授業概要・目標】

リハビリテーションの概念を身につけ、障害をもった方への接し方を考える。また、各障害の理解を通して鍼灸治療効果の可能性を幅広く考察できるように導く。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (リハビリと鍼灸治療)
2	リハ概要 1～2
3	リハ概要 3～5
4	医学リハの概要 1～2～3
5	障害の評価 1～2
6	障害の評価 3～4～5～6
7	障害の評価 7～8～9
8	医学的リハ 1～2
9	医学的リハ 3～4～5
10	医学的リハ 6～7～8
11	運動学基礎 1～2～3 8～9
12	前期復習
13	前期復習
14	試験準備
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脳卒中 1
2	脳卒中 2
3	脊髄損傷
4	切断リハ
5	小児リハ
6	骨・関節 1
7	骨・関節 2
8	末梢神経麻痺
9	リウマチ・パーキンソン
10	呼吸器疾患
11	心疾患・高齢者リハ
12	後期復習
13	後期復習
14	試験準備
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	知識と理解を文章で表現できるか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、理解を深めるために障害体験をさせる。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	テキスト

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	亀井 啓	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	曜日・時間	土曜日 13:10～

【授業概要・目標】

スポーツ東洋療法に関する専門的知識と技術向上獲得を目的とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	テーピング実技
3	スポーツ東洋療法-1 総論
4	スポーツ東洋療法-2 実際
5	スポーツ東洋療法-3 現状
6	スポーツ東洋療法-4 鑑別診断
7	各論-1
8	各論-2 競技場で遭遇しやすい疾患
9	各論-3 整形外科疾患 頸部損傷、コンパートメント症候群
10	各論-4 内科疾患 かぜ、アトピー性皮膚炎
11	各論-5 内科疾患 かぜ、アトピー性皮膚炎
12	各論-6 身体各部位に発生しやすい傷害と治療
13	各論-7 身体各部位に発生しやすい傷害と治療
14	前期総括
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-1 サッカー
2	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-2 バレー、バスケット
3	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-3 陸上、水泳
4	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-4 ゴルフ、ヨット
5	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-5 テニス、スキー
6	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-6 柔道、レスリング
7	競技種目別に発生しやすい傷害と対処法-7 剣道、野球、ラグビー
8	コンディショニング
9	疲労回復
10	スポーツ(運動)生理学
11	トレーニング、アスレチックリハビリテーション
12	スポーツと栄養、熱中症
13	ボランティア活動について
14	後期総括
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期、後期筆記試験、実技試験、小テスト(実力試験)、授業態度、日常態度全てに鑑みて判断する。
授業の進め方	テキスト、参考図書の充実とその利用拡大により視野を広げる。
注意 (学生に望むこと)	日常における予習復習の励行。授業に関係なしに貪欲に様々な医療知識を吸収しようという姿勢を期待する。
テキスト・参考書	スポーツ東洋療法ハンドブック、その他資料配布

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	宍戸 新一郎	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	東洋医学各論Ⅱ	曜日・時間	土曜日 14:50～

【授業概要・目標】

施術者として必要な東洋医学の概念、診断法及び治療法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	弁証1
2	弁証2
3	弁証3
4	論治1
5	論治2
6	治法1
7	治法2
8	弁証論治の進め方と証の決定
9	まとめ1
10	まとめ2
11	まとめ3
12	まとめ4
13	まとめ5
14	まとめ6
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	まとめ7
2	まとめ8
3	まとめ9
4	まとめ10
5	練習問題Ⅰ
6	練習問題Ⅱ
7	練習問題Ⅲ
8	練習問題Ⅳ
9	練習問題Ⅴ
10	練習問題Ⅵ
11	練習問題Ⅶ
12	練習問題Ⅷ
13	練習問題Ⅸ
14	練習問題Ⅹ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期:筆記試験による 後期:筆記試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する	そ
授業の進め方	教科書に基づいて進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある	
注意 (学生に望むこと)	1・2年時の学習内容がベースになるので復習しておくこと。	
テキスト・参考書	『新版 東洋医学概論』 医道の日本社	

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸科第二部 3年
科目名	鍼灸理論 I	曜日・時間	土曜日 16:30～

【授業概要・目標】	
①1年次に学習した鍼灸の基礎知識・リスク管理について復習をし、より理解を深める	
②「鍼灸がなぜ効くのか？」を鍼灸の一般治効理論や関連学説を通して理解する	
そして、患者さんに説明できるようになることを目標とする	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	第9章 鍼灸治効の基礎
3	第9章 鍼灸治効の基礎
4	第9章 鍼灸治効の基礎
5	第9章 鍼灸治効の基礎
6	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
7	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
8	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
9	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
10	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
11	第11章 関連学説
12	第11章 関連学説
13	第11章 関連学説
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第1章 概論
2	第2章 鍼の基礎知識
3	第3章 刺鍼の方法と術式
4	第4章 特殊鍼法
5	第5章 灸の基礎知識
6	第6章 灸術の種類
7	第7章 鍼灸の臨床応用
8	第8章 リスク管理
9	鍼灸理論 国試演習①
10	鍼灸理論 国試演習②
11	鍼灸理論 国試演習③
12	鍼灸理論 国試演習④
13	鍼灸理論 国試演習⑤
14	後期まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期:筆記試験による、後期:筆記試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する
授業の進め方	教科書に基づいてプリントを進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意 (学生に望むこと)	鍼灸治効機序は、生理学が主体となっているため、生理学の復習を重ねて、基礎を身につけて下さい
テキスト・参考書	『はりきゆう理論』『はりきゆう実技<基礎編>』(東洋療法学校協会編)生理学 第3版』(東洋療法学校協会編)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸科第二部3年
科目名	臨床実習	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備（補助）ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（鍼灸科第二部）

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	実務内容
鍼灸基礎実技Ⅰ	1年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
病理学概論	2年次	60	伊東太郎	5年以上	鍼灸院を開業した経験をもち、現在も 付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
臨床医学各論Ⅱ	3年次	60	国分俊繁	10年以上	鍼灸接骨院での勤務経験をもち、現在 も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なっ ている。
鍼灸理論Ⅰ	3年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
東洋医学応用概論	3年次	60	古川雄一郎	5年以上	鍼灸院での勤務経験をもち、現在も付 属鍼灸院で鍼灸の臨床を行なってい る。
	合計時間数	300			